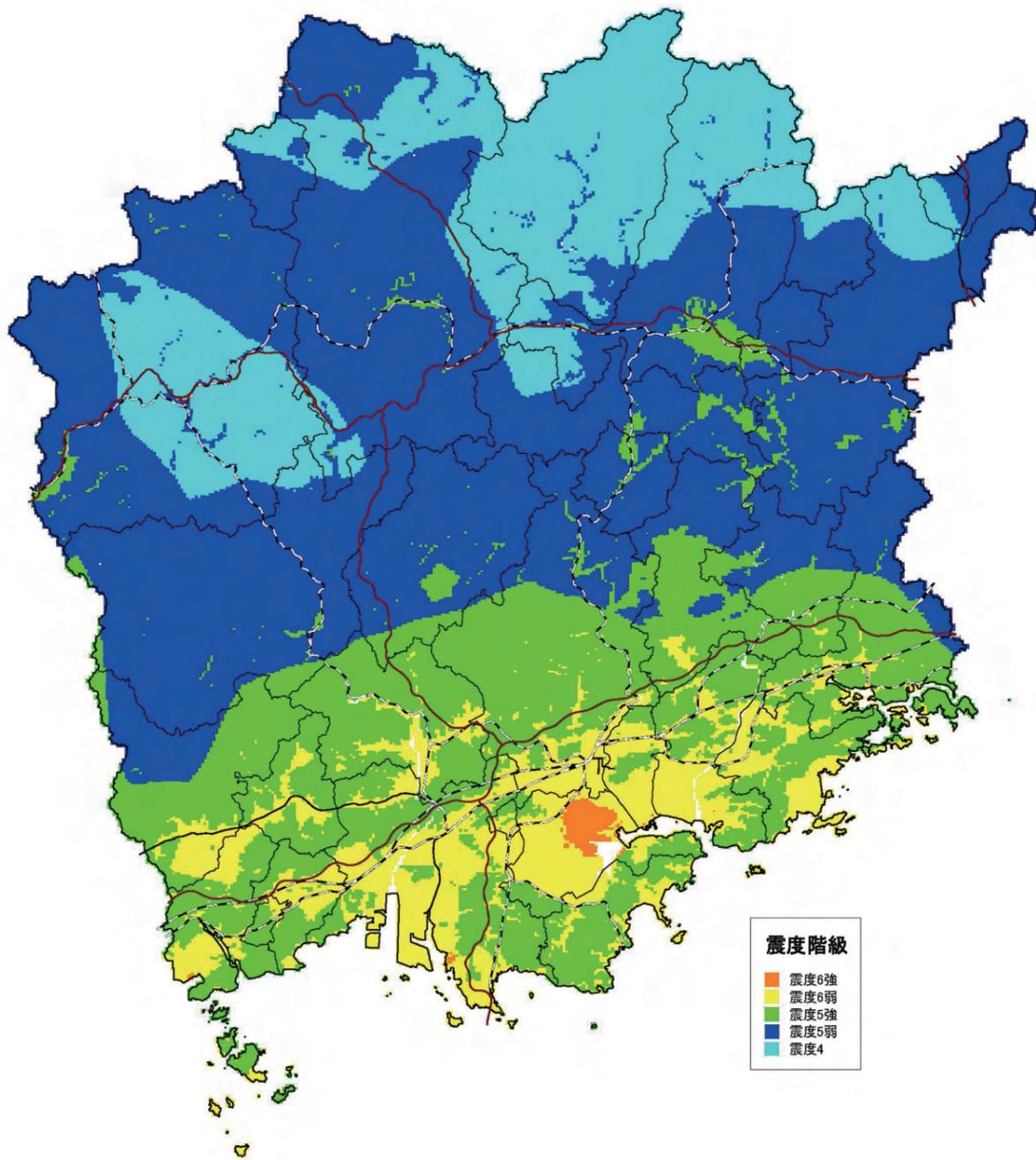


# 岡山県の災害リスクを知る

<揺れなど>

## 【南海トラフ地震】

### ●岡山県の想定最大震度



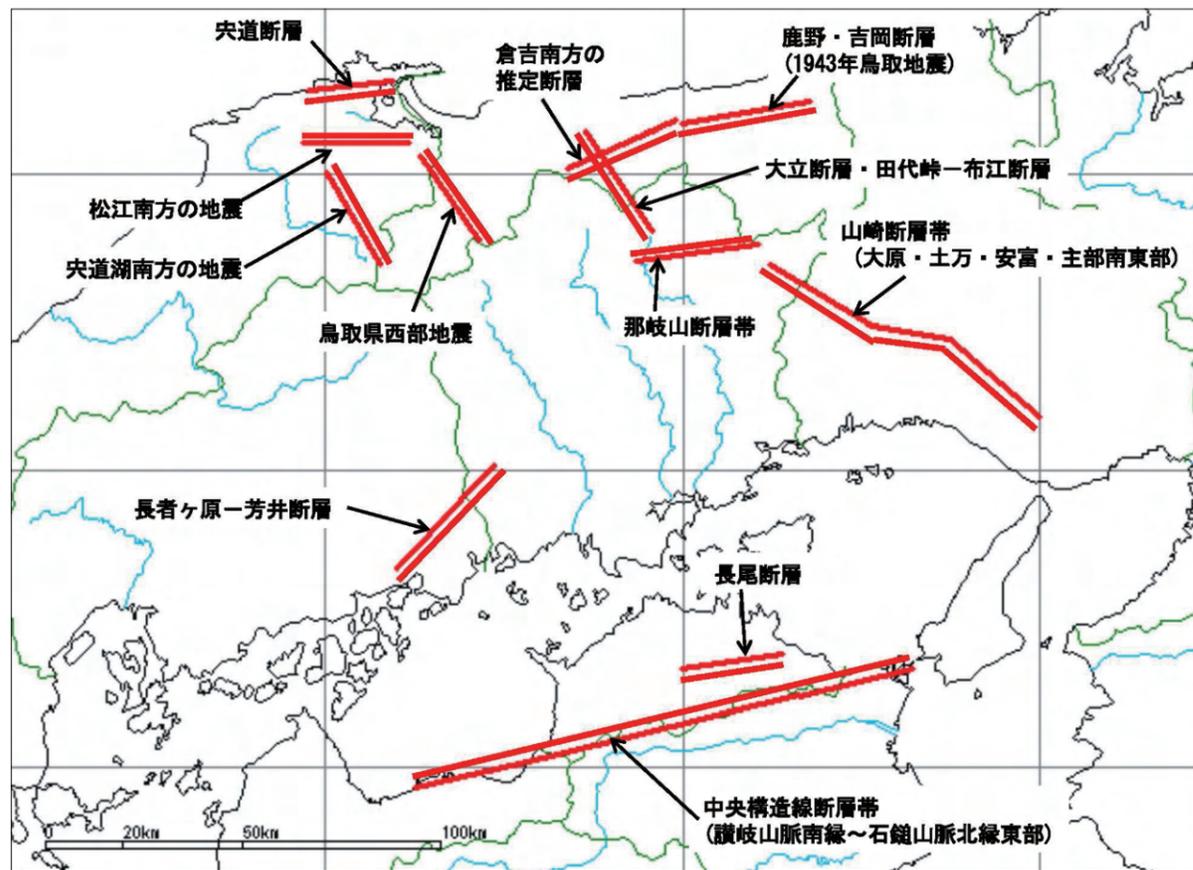
今後30年以内に、マグニチュード8～9クラスの規模の南海トラフ地震が、約70～80%の確率で発生すると言われています。

県は、国が検討したマグニチュード9クラスの南海トラフ地震の発生モデルケースを基に、県内の震度が最大になる条件で被害想定を行いました。(平成25年7月公表)

岡山市・倉敷市・笠岡市で最大震度6強、他の地域でも県南部を中心に広い範囲で震度5強以上の強い揺れが想定されています。

## 【断層型地震】

### ●岡山県周辺の活断層



県内に被害をもたらす地震は、南海トラフ地震だけではありません。南海トラフ地震で強い揺れが見込まなかった県北部地域などでも、大きな被害をもたらす可能性がある断層型地震のリスクがあります。(熊本地震も発生確率が低いと認識されていました。)

岡山県では、県周辺の活断層を震源とする地震のうち、県内で震度6弱以上の強い揺れが発生し、大きな被害が生じるおそれのある7つの地震について、被害想定を行っています。(平成26年5月公表)

### ●断層型地震の想定被害

断層名	マグニチュード	県内最大震度	主な市町村	建物全壊(棟)	死者数(人)	最大避難者(人)
長者ヶ原-芳井断層	7.4	6強	倉敷市・笠岡市	856	40	21,672
山崎断層帯	8.0	6強	美作市・奈義町	604	33	5,680
大立断層・田代峠-布江断層	7.2	6強	真庭市・鏡野町	340	20	3,868
那岐山断層帯	7.3	6強	津山市・鏡野町・奈義町	209	12	2,078
倉吉南方の推定断層	7.2	6強	真庭市	113	6	1,442
中央構造線断層帯	8.0	6弱	岡山市・倉敷市・笠岡市	291	5	11,018
鳥取県西部地震	7.3	6強	新見市・真庭市	17	0	150

# 岡山県の災害リスクを知る

## <南海トラフ地震での津波・液状化>

### 【岡山県を襲う津波】

※内閣府「南海トラフの巨大地震モデル検討会」による検討ケースの内、岡山県内で最も影響が大きいケースの場合。

#### ●最大津波高※

関係市	津波の越流により堤防等が破壊される場合	地震により堤防等が破壊される場合
岡山市(中区)	2.4m	1.8m
岡山市(東区)	2.8m	2.5m
岡山市(南区)	2.6m	2.6m
倉敷市	3.2m	3.2m
玉野市	2.9m	2.8m
笠岡市	3.4m	3.2m
備前市	3.0m	2.9m
瀬戸内市	3.0m	2.8m
浅口市	2.8m	2.8m

※津波高(東京湾平均水面からの高さ)=満潮位+津波の高さ

#### ●海面変動影響時間 第1波到達※

関係市	主な地点	影響開始時間
岡山市	児島湾締切堤防	2時間50分
倉敷市	下津井漁港	2時間27分
玉野市	山田港	2時間18分
笠岡市	笠岡港	3時間22分
	金風呂漁港(島しょ部)	3時間58分
備前市	寒河港	2時間9分
	大多府漁港(島しょ部)	1時間56分
瀬戸内市	錦海塩田	1時間58分
浅口市	寄島漁港	4時間12分

※影響開始時間はあくまで推計値であり、津波の発生のおそれがある場合には、速やかに避難することが大切です。

**5.0m** 2階建程度の建物が水没する

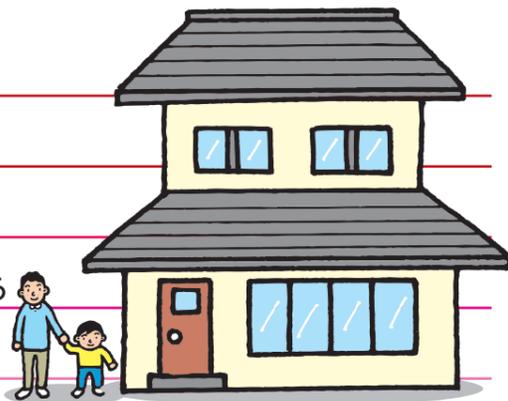
**3.0m** 木造家屋のほとんどが全壊する

**2.0m** 木造家屋の半数が全壊する

**1.0m** 津波に巻き込まれるとほとんどの人が亡くなる

**0.3m** 避難行動が取れなくなる

※浸水深=地面からの高さ

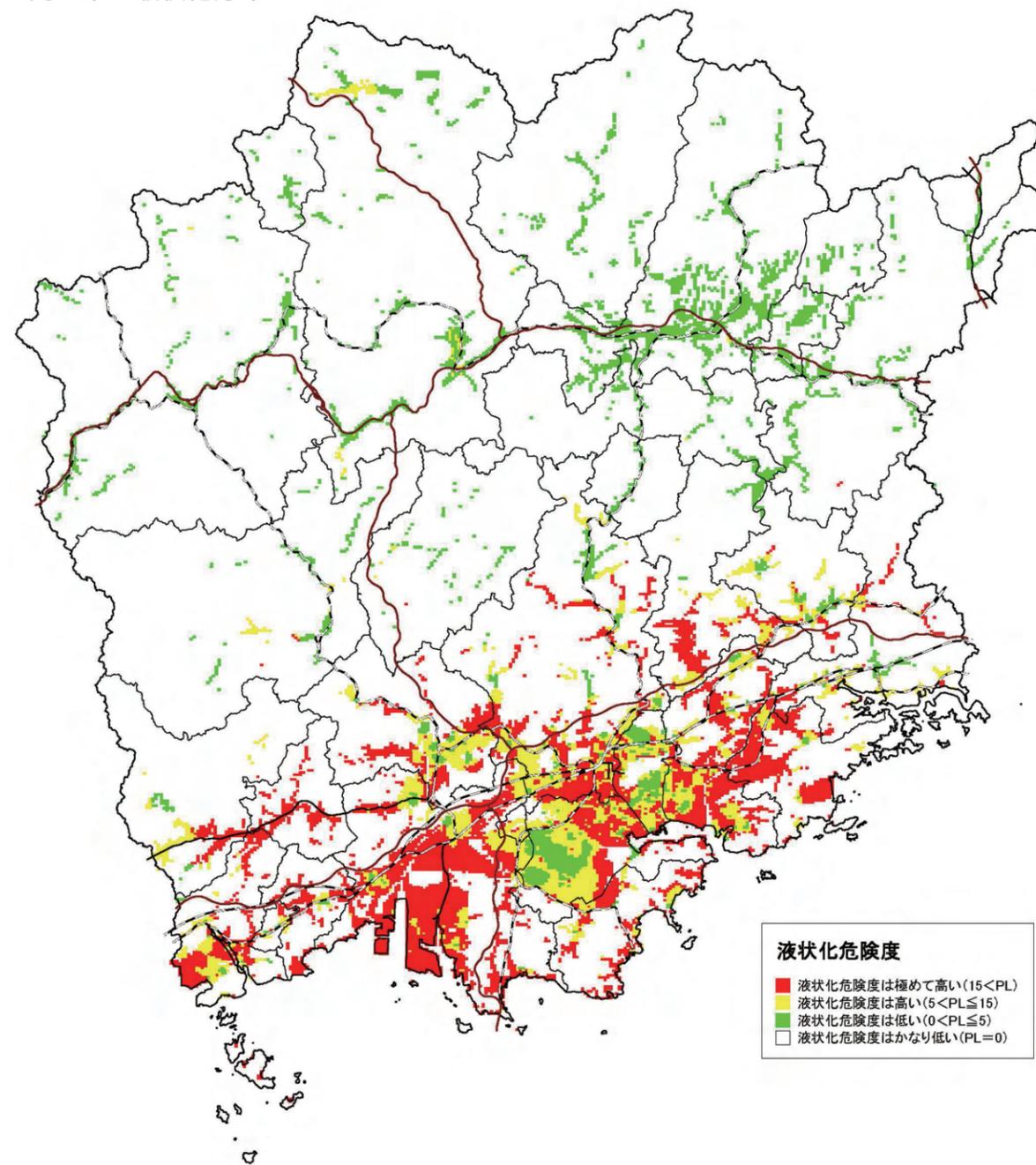


### 避難する際の注意

- 戸締まりや火の始末などを落ち着いて行い、安全な経路で速やかに避難することが大切です。
- 岡山を襲う地震は南海トラフ地震だけとは限りません。海辺や河口付近で地震が起きた場合は、ただちに離れ、気象庁の津波警報・注意報を確認して適切に行動しましょう。
- 津波は何度も襲来し、第1波が最大とは限りません。津波警報・注意報が解除されるまでは戻らないようにしましょう。

### 【液状化】

#### ●岡山県の液状化分布図



**液状化危険度**

- 液状化危険度は極めて高い(15<PL)
- 液状化危険度は高い(5<PL≤15)
- 液状化危険度は低い(0<PL≤5)
- 液状化危険度はかなり低い(PL=0)

液状化とは、地震の揺れによって水を含む土が泥水化する現象です。埋立地や河口など水分を多く含んだ砂質の地盤で発生する現象で、砂が噴き出したり、地盤沈下や陥没が起きたりして、住宅や水道管、道路、堤防・護岸に大きな被害をもたらします。

液状化危険度の高い場所は、古くから多くの干拓や埋立事業が行われてきた県南海岸付近の地域に広く分布していますが、県北や内陸部でも昔の河道付近や盛土の造成地などの地域では、液状化被害に注意が必要です。